

## 議員提出議案第4号

細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化の早期実現を求める意見書の提出について

上記意見書を下記のとおり藤岡市議会会議規則第14条第1項の規定により提出する。

平成22年6月15日 提出

**平成22年6月15日 可決**

提出者	渡辺 徳治	賛成者	阿野 行男	賛成者	青柳 正敏	賛成者	久保 信夫
賛成者	針谷 賢一	〃	木村 喜徳	〃	堀口 昌宏	〃	湯井 廣志
〃	松本啓太郎	〃	茂木 光雄	〃	岩崎 和則	〃	冬木 一俊
〃	渡辺新一郎	〃	斉藤千枝子	〃	窪田 行隆	〃	佐藤 淳
〃	隅田川徳一	〃	反町 清	〃	松村 晋之	〃	山田 朱美
〃	吉田 達哉						

細菌性髄膜炎ワクチンの公費による定期接種化の早期実現を求める意見書（案）

趣旨

細菌性髄膜炎は毎年約1,000人もの乳幼児がかかる病気で、初期には発熱以外に特別な症状がみられないため診断もむずかしく、重篤な状態となって初めてわかる怖い病気です。死亡率5%、後遺症の残る率は20%といわれています。

しかし、この病気の原因とされるインフルエンザ菌b型（ヒブ）と肺炎球菌にはすでにワクチンができ、世界保健機構（WHO）は1998年に世界中のすべての国々に対して、乳幼児へのヒブワクチン無料接種を推奨しています。肺炎球菌についても七価ワクチンが世界90カ国以上で承認され、このワクチンを定期接種化した国々では「細菌性髄膜炎は過去の病気」となっており、アメリカでは発症率が約100分の1に激減したといわれています。

日本では、ヒブワクチンは2008年12月によりやく接種できるようになりましたが、まだ任意接種のため、4回接種で約3万円もかかり、子育て世代には大きな負担となっています。七価ワクチンは2009年10月に乳幼児に接種することが認められましたが、同じく子育て世代への負担は大きいものです。

ヒブワクチンと七価ワクチンの公費による定期接種化が実現すれば、恐ろしい細菌性髄膜炎から子どもたちを守ることができます。ぜひ1日も早く、ヒブワクチンと七価ワクチンの公費による定期接種化を実現されるようお願いします。

記

- 1、すみやかにヒブワクチンの公費による定期接種化をおこなうこと
  - 2、乳幼児が接種できる肺炎球菌ワクチン（七価ワクチン）の公費による定期接種化をおこなうこと
  - 3、ヒブワクチンと七価ワクチンについて乳幼児がいる世帯に周知徹底すること
- 以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成22年6月15日

衆議院議長、参議院議長 宛

藤岡市議会議長 神田 省明